

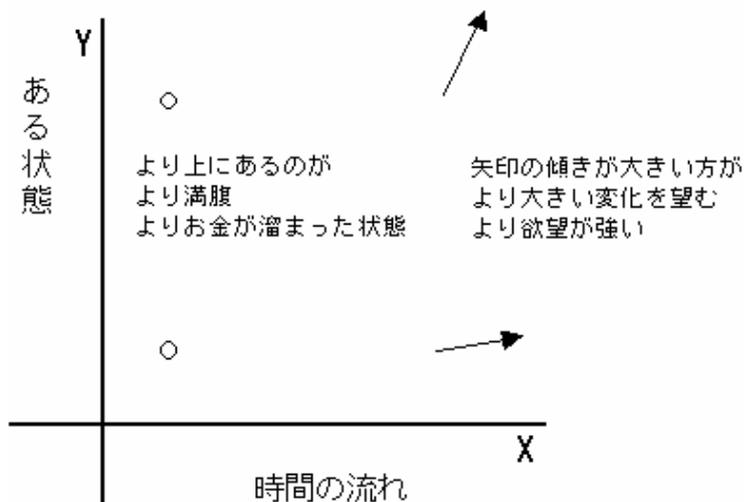


幸福になりたい、幸福になるべきだ、これが僕の人生の総てを規定していると言っても過言ではありません。僕の母が僕を産んでくれたのも僕がいまここにいるのも僕が幸福になるためであって、それ以外の目的を見出すことができない。幸福はそれほど大事なものだと思っています。

では、その幸福とは何か、幸福になるとはどういう意味か、幸福になるにはどうすればいいのか、それを問わずにはられません。幸福とは欲望の充足である、という仮設はあまりに拙速だとしても、幸福と欲望とは決して無関係ではあり得ない。幸福とは何か、を考える前に欲望を徹底的に研究してみよう、と今考えているところです。欲望の研究をとおして幸福とは何かが見えてくるのではないか。

欲望を辞典で引くと「ほしがること、不足を満たそうとすること」とあります。「今自分がおかれた状態から何らかの変化を望むこと」と言っていると思います。いや、今のままでいたい、という欲望もあるじゃないかと言われそうですね。変化だけじゃないと。そうですね、では「今自分がおかれた状態を鑑み、次ぎの状態のあり方（今のままも含めて）を望むこと」としましょう。

すると欲望は「今の状態」と「次ぎのあり方」の関係で定義する事ができる、という事になります。

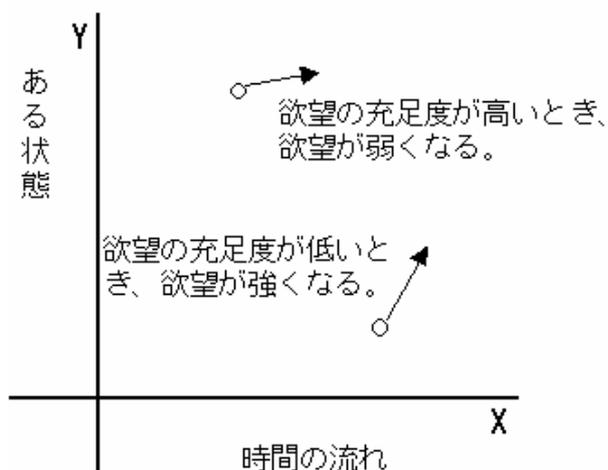
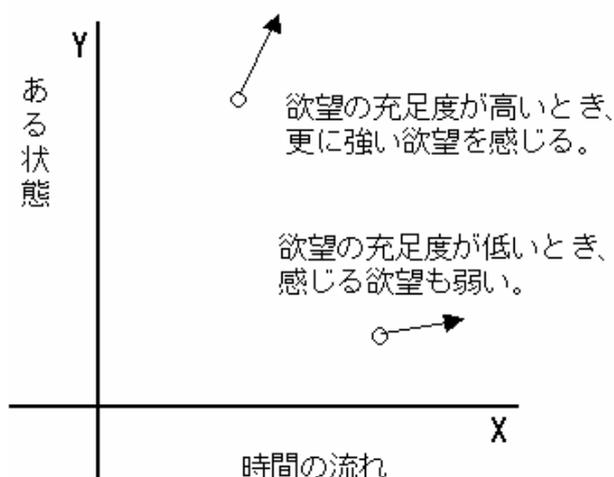


それを表現するために XY 座標を用意しましょう。Y 軸に状態を表し、X 軸に時間（次ぎ）を表します。

例えば食欲という欲望を例にとれば、Y 軸の上であればあるほど満腹な状態（食欲が満たされた状態）を表し、金欲を例にとれば Y 軸の上はお金が溜まった状態を表すと考えてください。

そして欲望の強さはその状態からの変化率で表します。より

大きい変化を望むのがより強い欲望を表すという事です。



ここまで準備して、改めて欲望というものを良く見てみると二つのパターンがあることに気がきます。それは充足度と欲望の強さに関連してですが、充足度が上がれば欲望の強さが少なくなるものと、充足度が上がるにつれ欲望も強くなっていくものです。前者を「善玉欲望」、後者を「悪玉欲望」と呼ぶことにします。

「善玉欲望」の代表的なものに食欲があります。お腹が一杯になればなるほど食欲は減退していきます。性欲も「善玉欲望」の仲間に加えられます。

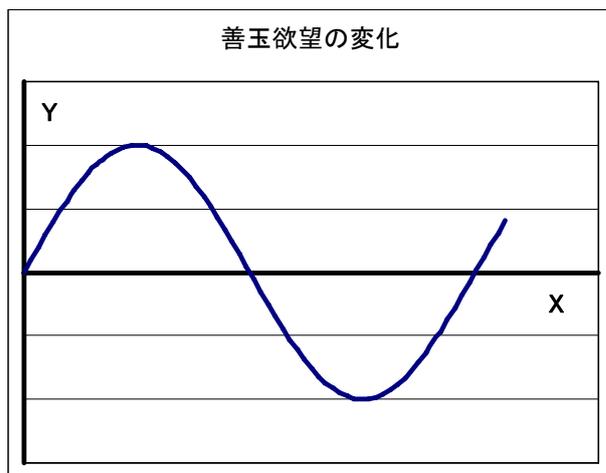
「悪玉欲望」の代表は金欲です。100万円持っている人が10万円欲しがるとすれば10億円持っている人は1000万円欲しがります。お金が溜まれば溜まるほどもっとお金が欲しくなる。名誉欲や権力欲なども「悪玉欲望」の仲間です。

「善玉欲望」を数学的に解明すると、ある状態  $y=f(x)$  と欲望 (状態の変化率)  $dy/dx$  が負の関係にあるということが出来ます。

つまり  $dy/dx=-y$  です。(yが大きくなれば  $dy/dx$  が小さくなる。yが小さくなれば  $dy/dx$  が大きくなる。)これを欲望第一方程式と呼びます。

矢澤の欲望第一方程式： $dy/dx=-y$

「悪玉欲望」を同じように表現すると  $dy/dx=y$  と表現できます。(yが大きくなれば  $dy/dx$  も大きくなる。yが小さくなれば  $dy/dx$  も小さくなる。)これを欲望第二方程式と呼びます。



矢澤の欲望第一方程式： $dy/dx=y$

これら二つの微分方程式を解くと

「善玉欲望」の場合  $y=\sin(x)$

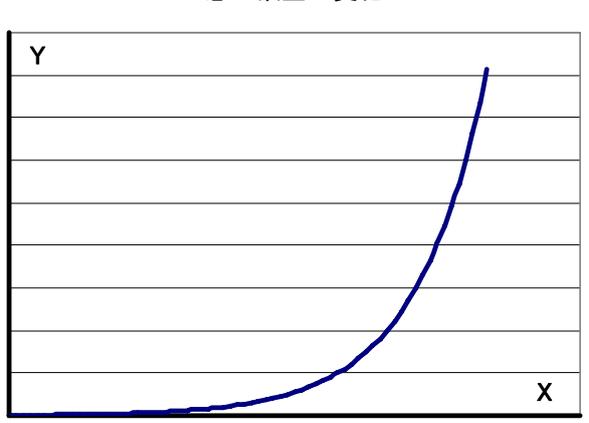
「悪玉欲望」の場合  $y=\exp(x)$  となり

ます。(どうしてそうなるかは数学の本を紐解いてください)

それぞれを図示すると左図のようになる訳ですが、どうして「善玉」「悪玉」と呼んだか分かっていただけるでしょう。「善玉」と呼んだわけはこの種の欲望は足るを知っているのに、破滅的になることがないからです。一方「悪玉」は足るを知らずより多くを求めるため、だから金持ちや権力者は亡者の様な死に方をすることが多いようです。

幸福と欲望の関係に戻りますと、幸福は欲望が満たされた状態、ないしは今のままでいたい状態、と言っているかと思います。つまり欲望  $dy/dx=0$  の状態です。これを幸福方程式と呼びます。

悪玉欲望の変化



矢澤の幸福方程式： $dy/dx=0$

「善玉欲望」の場合はサインカーブの頂上と底の部分です。頂上の部分は満腹状態、底の部分は空腹時に食べ物にありついた状態です。どちらも幸福ですよ。

問題は悪玉欲望に  $df(x)/dx=0$  を満たすポイントがない事です。クリスマス・キャロルのスクルージおじさんは、だから幸福感を感じることがありませんでした。

そして私は以下のような仮説を持っています。

人間は個人個人が己の人生関数  $y=A \cdot \sin(\omega_1 x + \alpha) + B \cdot \exp(\omega_2 x + \beta)$  を持っていてその変化の中で幸福を感じ

るのではないか。この構造は人間に普遍的に当てはまり、その係数  $A$ 、 $B$ 、 $\omega_1$ 、 $\omega_2$ 、 $\alpha$ 、 $\beta$  がその人の生まれや生き立ち好みを表し個人差の元になっている。その内特に重要なのが  $\omega_1$ 、 $\omega_2$  でそれが一致する人のそばにいと幸福が共鳴することがある。つまりある人の幸福な姿を見て自分も幸福になり、また自分の幸福をその人が喜んでくれるという状態になる。幸福の共鳴状態、すなわち  $\omega_1$ 、 $\omega_2$  の一致をもって「愛」の定義とする。

(06.03.11)